

【演習】

強度行動障害とコミュニケーション

この時間の目的

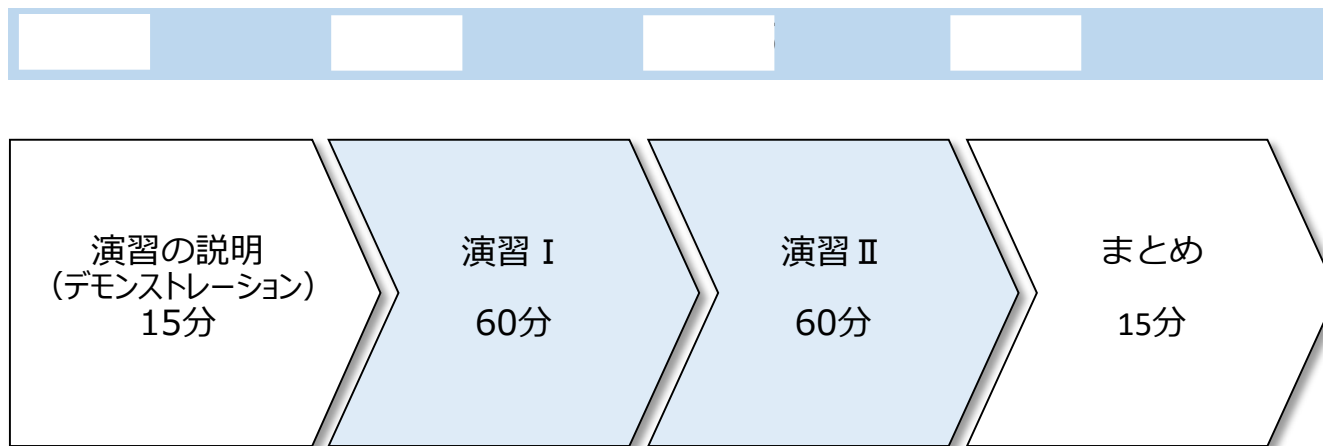
行動障害の中には、話し言葉を理解することや、話し言葉などで相手に気持ちや意見を伝えることが難しいため、起きてしまうものがあります。

この時間では、①話し言葉が「分からない」「伝えられない」状況を疑似体験し、②コミュニケーションとしての行動障害の機能を検討し、適切にコミュニケーションを行う大切さを理解しましょう。

【ポイント】

- ① 話しことばを「理解しにくい」人たちの気持ちを理解する
- ② 話しことばに依存した日常の支援を振り返る
- ③ 話しことばを「表現しにくい」人たちの気持ちを推測する
- ④ 行動障害の背景に、気持ちや意見を適切に表現することが難しいこと、障害特性と環境要因が関連していることを理解する

この時間の流れ



演習 I : 3人の小グループに分かれ、グループごとに、話し言葉が「分からない」「伝えられない」状況の疑似体験します。

演習 II : 架空事例をもとに、そこでの行動障害が表している機能について6人グループで検討し、機能を話しことばに置き換えてみましょう。

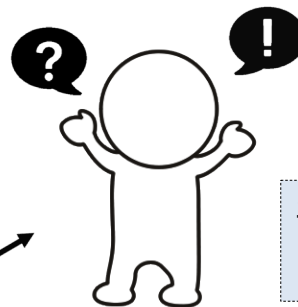
演習の説明 | デモンストレーション

- これからデモンストレーションを行います。
- スタッフから2人に出てきていただき、デモンストレーションに協力してもらいます。●●さん、●●さん、前に出てきて下さい。

デモンストレーションの役割

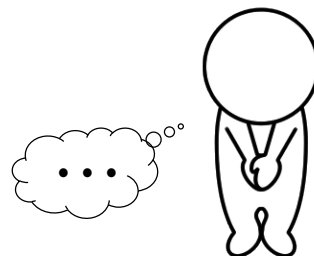
○○ : 援助者

援助者は、モデルに対して、聞き覚えのない外国語で指示を出す



●● : モデル

モデルは、援助者の出した指示に従い、アクションして下さい



●● : モデルサポート

モデルサポートは、モデルの気持ちを観察して推測して下さい(何もアクションをしない)

演習の説明 | デモンストレーション

デモンストレーションの流れ



○○ : 援助者

○X△●■○…
(話しことばのみ)

不正解なら

○X△「日本語」○
(話しことばのみ)

不正解なら

○X△「日本語」○
(ジェスチャー入り)

不正解なら

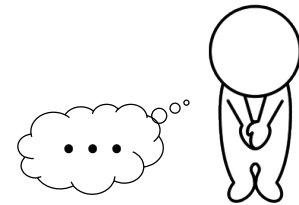
○X△「日本語」○
(ありとあらゆる手段駆使)

●● : モデル



援助者の指示
に従って下さい

●● : モデルサポート



モデルの気持ち
になって、観察

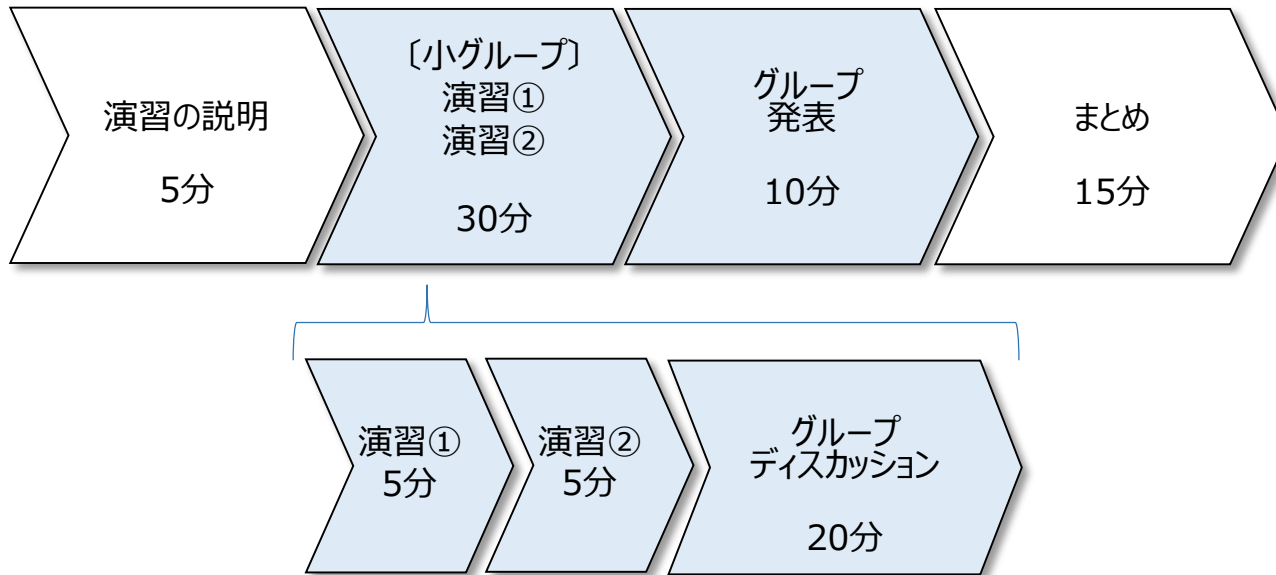
演習の説明 | デモンストレーション

質問タイム

- モデルサポートに質問します
 - ① 結果的にはどういう指示だったと思いますか？
 - ② はじめから振り返ってみましょう。話しことばのみのとき、モデルはどう感じていたと思いますか？
 - ③ 日本語が混ざることで、何かヒントになっていましたか？
 - ④ 身振りや動作が加わって、分かりやすくなっていたでしょうか？
 - ⑤ 具体的にどのようなことが手がかりになっていたと思いますか？
 - ⑥ 指示がわからない時、モデルはどのような気持ちだったと思いますか？
- モデルに、モデルサポートの回答は合っていたかどうか、感想を述べてもらいます
- 援助者が「オーバ」と「ジョグ」ということばを何度も使っていましたが、日本語に置き換えるとどういう意味だと思いますか？

演習 I | 演習の流れ

■ 演習の流れ



- 説明後、3人の小グループに分かれ疑似体験の演習①、演習②を続けて行います。
- 演習後、再び6人グループに戻ってディスカッションを行います。
- その後、2～3グループに発表をしてもらいます。

演習① | 「分からない」状況の疑似体験

■ 小グループと役割の確認

奇数番号の小グループと、偶数番号の小グループを作ります

小グループには「援助者（③④）」「モデル（⑤⑥）」「モデルサポート（①②）」の3つの役割があります。

■ 各役割の内容は以下の通りです

③、④	【援助者】	<ul style="list-style-type: none">● 指示書（台詞）の受け取り係● モデルに対して、聞き覚えのない外国語で指示を出す
⑤、⑥	【モデル】	<ul style="list-style-type: none">● 援助者の出した指示に従い、アクションする
①、②	【モデルサポート】	<ul style="list-style-type: none">● モデルの気持ちを汲んで観察

演習① | 注意点

注意点

- 演習が開始されたら、援助者は日本語を話せません。援助者以外の皆さんも日本語を話さないで下さい。また、援助者以外はヒントになるような表情や身振り、笑い声も原則禁止です。
- 援助者は、勝手に手がかりを増やさないでください。指示があるまで、同じ手がかりだけを繰り返して出してください。
- 援助者は、「ジヨグ」と「オーバ」は使用できません。
- モデルは援助者からの指示された内容を想像し、何らかのアクションを必ず行って下さい。「照れ」「過剰な演技」は厳禁です
- 指示の次のステップに移るタイミングは、私が出します。
- モデルが正解したら、「静かに」座ってお待ち下さい。

演習① | スタート

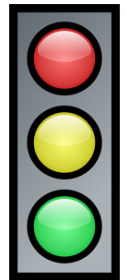
- 援助者は、台詞を前に取りに来てください（偶数番号の小グループは●色封筒
奇数番号グループは●色の封筒を取ってください）。
- 援助者は、台詞を封筒から出すときに他者に見られないようにしてください。

役割分担は大丈夫？

各自準備はOK？

では、

はじめましょう



話しことばで！

一部日本語を加えて！

ジェスチャー・身振りも！

ありとあらゆる手がかりを！

演習② | 「分からない」状況の疑似体験

- 役割を交代します。各自役割を確認してください。

⑤、⑥	【援助者】	<ul style="list-style-type: none">● 指示書（台詞）の受け取り係● モデルに対して、聞き覚えのない外国語で指示を出す
①、②	【モデル】	<ul style="list-style-type: none">● 援助者の出した指示に従い、アクションする
③、④	【モデルサポート】	<ul style="list-style-type: none">● モデルの気持ちを汲んで観察

- 援助者は台詞を前に取りに来てください（偶数番号の小グループは●色封筒、奇数番号グループは●色の封筒を取ってください）。
- 援助者は、封筒から台詞を出すときに、他者に見られないようにしてください。

演習② | 注意点

注意点

- 演習が開始されたら、援助者は日本語を話せません。援助者以外の皆さんも日本語を話さないで下さい。また、援助者以外はヒントになるような表情や身振り、笑い声も原則禁止です。
- 援助者は、勝手に手がかりを増やさないでください。指示があるまで、同じ手がかりだけを繰り返して出してください。
- 援助者は、「ジヨグ」と「オーバ」は使用できません。
- モデルは援助者からの指示された内容を想像し、何らかのアクションを必ず行って下さい。「照れ」「過剰な演技」は厳禁です
- 指示の次のステップに移るタイミングは、私が出します。
- モデルが正解したら、「静かに」座ってお待ち下さい。

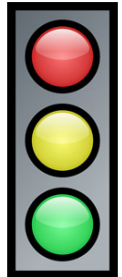
演習② | スタート

役割分担は大丈夫？

各自準備はOK？

では、

はじめましょう



話しことばで！

一部日本語を加えて！

ジェスチャー・身振りも！

ありとあらゆる手がかりを！

グループディスカッション

- 3人の小グループから、6人グループに戻ってください
- ①が「司会」、②が「記録」を行ってください。なお「記録」は「発表者」も兼ねてください
- ディスカッションのテーマは下の4つです（時間は20分です）

ディスカッションのテーマ

1. グループ名を決めてください！
2. 話しことばの理解が難しい人の戸惑いを体験してもらいましたが、もう一度、どういう気持だったかまとめてください
3. 様々な手がかりが出されましたが、援助者が意図した、あるいは意図していない、どのような手がかりが有効でしたか
4. 指示する側も、伝わらない、わかってくれないストレスを感じたと思います。どういう気持だったかをまとめて下さい

2～3グループから 発表してもらいます

発表の内容

1. グループ名（と、その理由）
2. 話しことばの理解が難しい人の戸惑いを体験してもらいました。どういう気持ちだったかを発表してください
3. どのような手がかりが有効でしたか
4. 指示する側も、伝わらない、わかってくれないストレスを感じたと思います。どういう気持ちだったかを発表してください

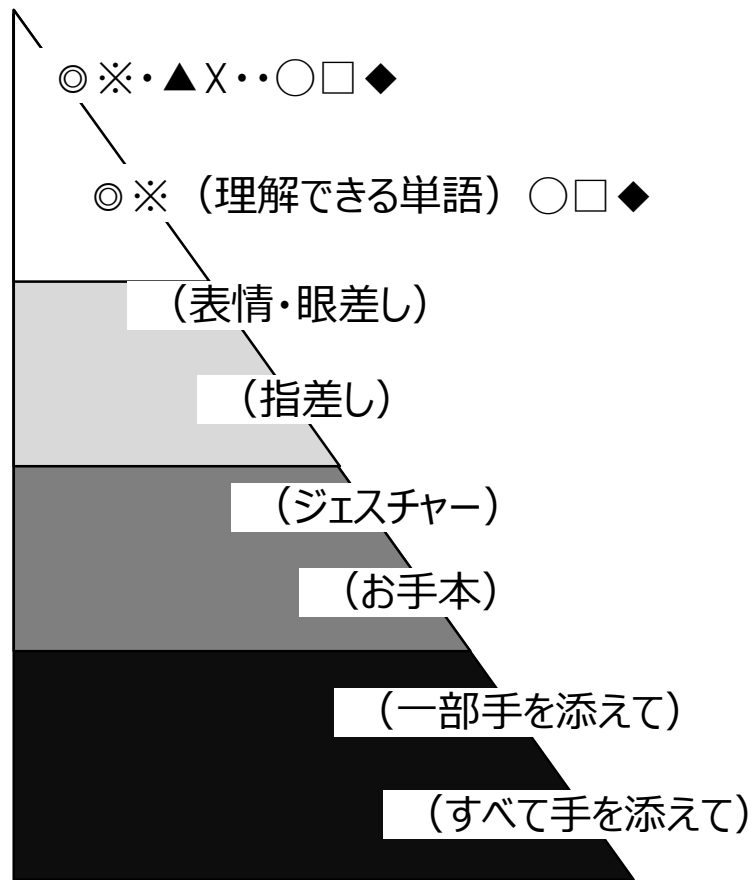
演習 I | まとめ

コミュニケーションとは相互のやりとり

- ① コミュニケーションとは、ラテン語の「分かち合う」という意味の *communicare* が語源です。
- ② コミュニケーションとは、出し手（表現／表出性）と受け手（受信／受容性）の相互作用による「やりとり」のことをいいます。
- ③ コミュニケーションを行っているとは、コミュニケーションの出し手の行為（行動）が、コミュニケーションの受け手の行為（行動）に、明らかに影響を与えることです。

コミュニケーションとは「話しことば」による「やりとり」だけではありません。次ページのピラミッドのように、ジェスチャーや表情、視線、さらに文字情報等も含みます。

演習 I | まとめ



言語の通じない外国に旅行に出かければ、私たちは自然に相手の意思を理解する、相手に意思を伝えるために、左の図のような様々な方法を活用するはずです。

文化の違いは、コミュニケーションの難しさを表面化します。障害者の中にも同様な人がいます。

話しことばだけでない、様々なコミュニケーションの方法があり、それを意図的（計画的）に使う工夫を学んでもらいました。

大切なこと：話しことばに依存しない

演習 I | まとめ

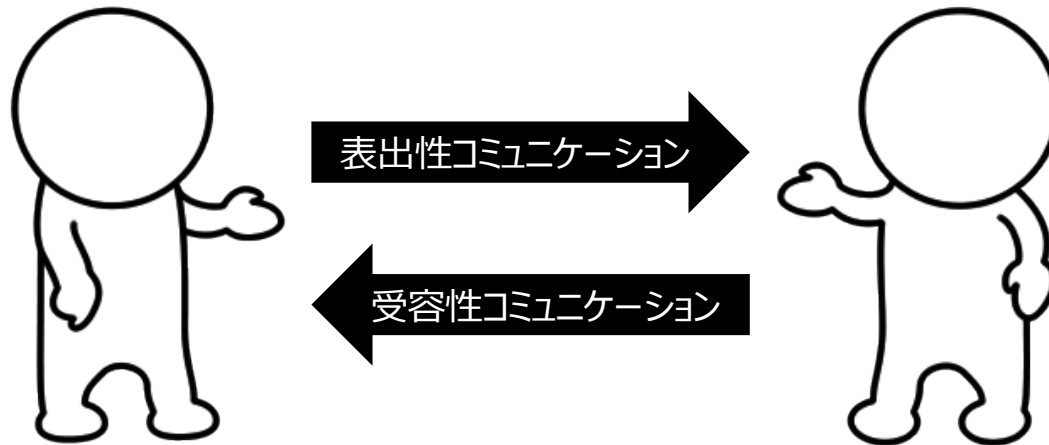
重度・最重度の知的障害者、または自閉症者とのコミュニケーション場面で、
「話を聞いていないようにみえる。」
「指さしをしても、その指した方向に意識が向いていない。」
といったことがあります。その背景には、障害特性が深く関係しています。

- 話し言葉を理解すること・表出することが苦手
- 見て欲しい部分や、意識を向けて欲しい部分に意識が向きにくい
- 表情や身振りを誤って理解してしまう
- 聞いた、理解した内容を忘れてしまう（記憶することが苦手） etc…

そのため具体物や写真、あるいは絵などを使うことによって、障害特性の影響が出ない方法でコミュニケーションが行われます。

大切なこと：しっかりと障害特性を理解しておく

演習Ⅱ | その前に



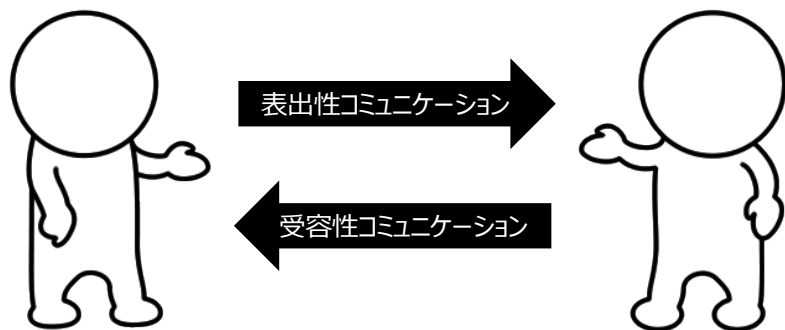
【様々な方法】

- 話しことば
- クレーン
- お手本（モデル）
- ジェスチャー
- 指さし
- 表情や視線
- 物
- 写真や絵
- 文字 …etc

もう一度コミュニケーションの考え方について振り返ります。

コミュニケーションとは、①出し手（表出性）と、②受け手（受容性）の、やり取り（相互作用）のことを言います。そしてコミュニケーションの方法は、話しことば以外にも様々な方法があります。

表出性コミュニケーション | 機能



相手に伝えるコミュニケーションには、以下のような機能が含まれています。強度行動障害といわれる人の中には、行動障害として表されているものもあります。

要求

(必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること

注意喚起

周囲の人に対して、注意を向けさせること／意識させること

拒否

他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること

コメント

個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと

情報提供

本人が既に知っている情報を、他者に伝えること

情報請求

本人が未だ知らない情報について、他者からその情報を求めること

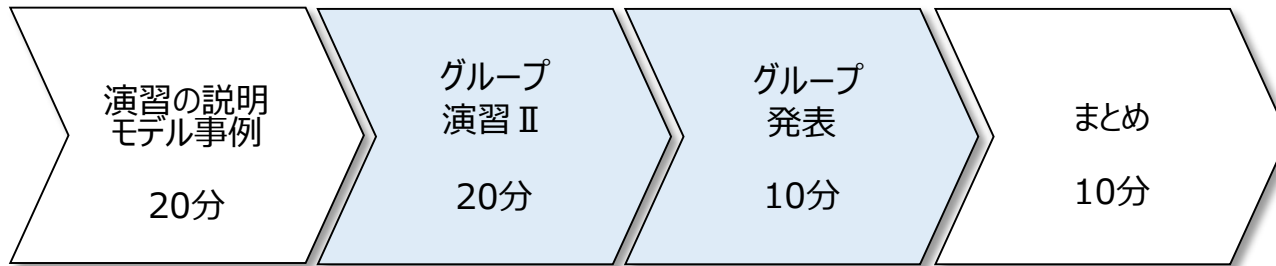
その他

喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

※ 機能の分類は、その他の考え方もあります。本研修では、上記の7つとして考えます。

演習Ⅱ | 演習の流れ

■ 演習の流れ



- これまでお話しした「表出性のコミュニケーション」と、これからお話しするモデル事例で20分です

※ モデル事例は、演習Ⅱで行う内容や方法を紹介しますので、しっかりと聞いておいてください

- 演習Ⅱはグループで行います。司会者を③、記録・発表者を④が行ってください。その後、発表を行います

特定の利用者を突き飛ばす A さん

- Aさんが利用している障害者支援施設では、月に1回、誕生日会があり、全利用者60人が食堂に集まってお祝いをします。誕生月の利用者の紹介と本人の一言から始まり、最後は歌をうたってケーキを食べます。
- 自傷や他害がある自閉症のAさんも、誕生日会には毎月参加しています。ですが、いつも厳しい表情で周りをキョロキョロしながら、両手で耳を塞いでいます。最後のケーキだけを急いで食べると、走って自室に帰って行きます。
- 今日は誕生日会です。いつも通り、厳しい表情で食堂へ現れたAさん。両耳を塞ぎながら、周囲をキョロキョロしています。すると急に走り出し、突然利用者を突き飛ばしてしまいました。すぐに職員がかけつけました。突き飛ばされた利用者は、姿が見えたり声が聞こえただけで他害を受けていた、特定の利用者でした。

モデル事例 | 機能の考え方

- 一般的に「行動には何らかのコミュニケーションの機能」があると考えられています。行動障害も同様に、コミュニケーションとしての機能があります
- Aさんの「特定の利用者を突き飛ばした」行動の、コミュニケーションとしての機能にはどういったものがあるでしょうか



1. コミュニケーションの機能

- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 要求 | <input type="checkbox"/> 注意喚起 | <input checked="" type="checkbox"/> 拒否 |
| <input type="checkbox"/> コメント | <input type="checkbox"/> 情報提供 | <input type="checkbox"/> 情報請求 |
| <input type="checkbox"/> その他 | | |

2. 話ことばに置き換えると・・・

例： 姿を見たくない（拒否）

例： 声を聞きたくない（拒否）

演習Ⅱ | 突然、服を脱ぎ出すBさん

- Bさんは中度の知的障害がある10代後半の自閉症の男性です。幼い頃から動き回るのがとても大好きだったので、土日の休みには、広い芝生がある近所の公園へ行くのが定番です。
- 普段はとても穏やかなBさんですが、両親には困っている事が、1つだけありました。それは決まって夏に起きます。いつも通り公園で遊んでいた時です。徐々に険しい表情になり、顔を真っ赤にさせたかと思うと、すべての衣類を脱ぎ、脱いだ衣類を持ってくることです。
- 「暑いからかな？」と思い、薄手の服を準備したり、冷たいお茶を出しても…やっぱり脱いでしまいます。「汗もほとんどかいていないのに。あっ！」お父さんは昨日のことを思い出しました。そういえば夕食後の歯磨きの時、袖に水が少しついただけで、上着を脱いでいました。その後、パジャマに着替えていたから気にならなかったけど、もしかして・・・

グループディスカッション

- ③が「司会」、④が「記録」を行ってください。なお「記録」は「発表者」も兼ねてください
- ディスカッションのテーマは下の2つです（時間は20分です）
- 他の人の意見を、批判したり、否定することはNGです

ディスカッションのテーマ

1. 「突然服を脱ぎ、衣類を両親に持っていく」というコミュニケーションの機能をグループ内でなるべく沢山考えてください（WS-1を使ってください）
2. 話し合った機能を、話しことばに置き換えてください
 - ※ 1つの機能に、複数の意味があることもあります
 - ※ 記録者は、発表ができるように準備しておいてください

2～3グループから 発表してもらいます

発表の内容

1. いくつ推測できましたか
2. 話しことばに置き換えた内容を教えてください

演習Ⅱ | 機能を推測する (例示)



演習Ⅱ | まとめ

コミュニケーションには機能がある

要求

(必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること

注意喚起

周囲の人に対して、注意を向けさせること / 意識させること

拒否

他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること

コメント

個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと

情報提供

本人が既に知っている情報を、他者に伝えること

情報請求

本人が未だ知らない情報について、他者からその情報を求めること

その他

喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

大切なこと : コミュニケーションの機能を理解する

演習Ⅱ | まとめ



モデル事例のAさんは、特定の利用者を突然突き飛ばしてしまいました。ここでの機能は「不快」と考えられますが、その背景には以下のような障害特性が推測されます。

- 特定の利用者を捜す（特定の物事に強く固執）
- 特定の利用者を押す（特定の行動を何度も繰り返す）
- 声やニオイなど、Aさんにとって耐えがたいものであれば（特定の感覚が過敏、または鈍い）

コミュニケーションには様々な機能があります。言語や表情などは一般的に理解しやすいものですが、強度行動障害がある方の場合、非言語あるいは行動障害の中に、コミュニケーションの機能が含まれています。またその背景には、障害特性が関連しているという視点を持つことが大切です。

大切なこと：障害特性という視点をもつこと

演習全体のまとめ

- 話ことばだけでなく、様々なコミュニケーションの方法があり、それを意図的（計画的）に使う工夫を学んでももらいました。また「伝わらない」背景に、障害特性が関係していること、障害特性を理解しておくことの大切さを学んでももらいました
- コミュニケーションとは、①出し手（表出性）と、②受け手（受容性）の、やり取り（相互作用）のことをいいます
- コミュニケーションには機能があること、行動障害もコミュニケーションの一つとなっていることを学んでももらいました。また受容性と表出性のコミュニケーションには、障害特性が関係していること、障害特性という視点を持つことの大切さを学んでももらいました

演習全体のまとめ

- 強度行動障害者の多くは、「話しことばの理解」「話しことば以外の手がかりの理解」「手がかりにタイミングよく注意を向けること」の3つが苦手な人たちです（理解／受容性）
- 強度行動障害者の多くは、「話しことばで伝える」「話しことば以外の方法で伝える」「適切なタイミングで伝える」の3つが苦手な人達です（表現／表出性）
- 障害特性をしっかりと理解し、強度行動障害者本人が理解できる方法で、「分かる」「伝えられる」コミュニケーションを行うことが、コミュニケーション支援の大切なポイントになります。

参考文献

- 坂井聡（2013）『自閉症スペクトラムなど発達障害がある人とのコミュニケーションのための10のコツ』エンパワメント研究所.
- アンディ ボンディ・オリ フロスト（2006）『自閉症児と絵カードでコミュニケーション -PECSとAAC』（園山繁樹・竹内康二訳），二瓶社
- L・R・ワトソンほか（1995）『自閉症のコミュニケーション指導法 - 評価・指導手続きと発達の確認 -』（佐々木正美・青山均訳），岩崎学術出版社

